



PTA教育講演会 歌語り『広島すずめ』

11月1日(金)、本校体育館においてPTA教養広報部主催の教育講演会が行われました。演題は、Study Concert 歌語り『広島すずめ ～あの日からずっとひとりじゃけえ～』。身延町在住のシンガーソングライター山本晴美さんによる、歌と台詞に映像を交えた『歌語り』に、会場に集まったすべての人が平和や自分の生き方について考えさせられました。▼タイトルに『広島』が入るこの歌語りは、原爆の被害にスポットを当てるのではなく、広島で被爆



し戦後生き抜いた一人の男性(タカオさん)の苦悩が中心に描かれています。タカオさんは10歳の時に爆心地から約3km程離れた場所で被爆します。タカオさんにとって戦後生き抜いていくことがどれほど辛く苦しいことなのか、本人になりきって表現する山本さんの歌語りから伝わってきました。しかし、平静な世の中を生きる私がタカオさんの気持ちを理解できたのかと言われると自信はありません。想像など到底及ばない世界を生き抜かなくてはならない原因となった戦争は二度と起こしてはならないと強く思いました。▼歌語りの後の『Study コーナー』では、広島平和記念資料館内に設置されている地球平和監視時計について、山本さんがお話してくださいました。私は修学旅行の引率で何度もこの平和資料館を訪ねながらも恥ずかしながら、この時計の存在を知りませんでした。11月1日時点でこの時計の上段の数字は『28,942』を、下段の数字は『171』を示しているとのこと。上段は広島への原爆投下から過ぎ去った日数で、下段は最後の核実験からの日数を表しているそうです。『28,942』と遠い過去になりつつある広島悲劇……。しかし下段の『171』は決して核の恐怖は過去の歴史の中の話ではなく、今もなお現代進行形で進んでいることを学ぶことができました。▼講演会終了後、みなさんの感想用紙を読ませていただきました。どの用紙にもたくさんの思いが綴られていて、改めてこの講演会を行って良かったと感じたと同時に、山本さんの歌語りをしっかりと受け止めることができる三珠中生徒のみなさんのことを誇りに思いました。みなさんの書いてくれたものの中からいくつかを紹介します。



▼今日のスタディーコンサートではタカオさんの人生を聞き、戦争はあってはいけないと強く感じました。原爆で身内を亡くし、孤独となり、自分の生き方が分からなくなる…。それは辛いことだし、信じられませんでした。私は一度だけ広島へ行き、原爆ドームを見たことがあります。その時思った戦争への思いと、この歌語りでは、別の感情がうまれていました。改めて80年前の出来事を、これからの未来を担う私たちが伝えていきたいと思いました。そして、今こうやって暮らしていること、勉強ができてきていることなど、「当たり前」のことだけどそれができていることに感謝したいし、貴重な話を聞くことができて良かったし、嬉しかったです。(1年生)▼原爆については授業などで少しは知っていましたが、被爆者についての話は初めて聞きました。実際に目の前に原爆が落とされた様で何度も耳をふさぎたくなりました。でも、この話を最後まで聞き、原爆の恐ろしさ、被爆者の思いを改めて感じました。原爆の大きさなどを聞き、もう絶対にこんなものが落とされてほしくないと思いました。3年生の修学旅行では、今回の話を胸に広島を見に行きたいです。(1年生)▼1つの爆弾で街がなくなってしまうこと、多くの人が死んでしまうこと、生き残ったとしてもひとりぼっちになってしまう子どもや放射線で後遺症が残ってしまうことが改めて分かった。昔でこれ程の威力があったのなら、今、落とされたら日本がなくなってしまう気がして怖い。爆弾を落として、良いことなど一つもないと思います。人の心に悲しみ、苦しみ、いたみが残るだけだと思いました。なので核を持たない世界になってほしい気持ちになりました。(2年生)▼戦争の時の悲しみや苦しみがすごく伝わった。色々なことを深く考えれば考える程、感動した。この時と比べたら今はすごく平和。平和に生きている運の良い自分に誇りを持ち、この時に亡くなった人々の分も全力で「生きたい」と思った。昔の人々はあんなに苦しんでいたのに、今、ここまで良い暮らしをしているのだろうか？とマイナス思考にならないように生きようと思った。今を大切に楽しく生きようと思った。(2年生)▼私は生き物を殺すことが嫌いです。なのでスズメを殺している話ですごく心が締めつけられました。だけど、両親も兄妹もいなくなって一人で生きていくしかなくなってしまうたら、私もおじさんと同じことをする…。生きるのにすごく精一杯だったんだなと思いました。一番最後に、山本さんがおじさんのお母さんの顔にそっくりだと分かった時、泣きそうになりました。だけど、決して自分の過去を話さなかったおじさんが山本さんだけに話をしたのは、それだけじゃなくて、山本さんの心の優しさにも引き込まれたんだろうなとも感じました。(3年生)▼広島で学んできたこと以外にもたくさんのお話を学ぶことができました。実際に被爆した人の話を聞くことは難しいけれど、晴美さんのように語り継ぐ人がたくさんいれば、若い人にも広島悲劇を知らせてもらえるのではないかなと思う。また、私たちが修学旅行に行った後にも、核実験が行われてしまったことや、アメリカやロシアが世界にある核兵器のほとんどを持っていることが分かった。自分にできることをして、核兵器を減らしたい。(3年生)





教育講演会后、みんなで記念撮影 2024.11.1

1週間前、山本さんがみなさんに出した宿題、みなさんは調べてみましたか？
答え合わせをしてみましょう。

原爆ドームのドーム部分が全壊しなかった理由

原爆ドームのドーム部分が全壊しなかったのは、次のような理由が挙げられています。

①衝撃波を受けた方向がほぼ直上からであったこと。

建物の真上から襲ってきた衝撃波による力が、ドームの形状により分散され、大きな力になり得なかった。

②窓が多かったことにより、爆風が窓から吹き抜ける（ドーム内部の空気圧が外気より高くない）条件が整ったこと。

③ドーム部分だけは建物本体部分と異なり、屋根の構成材が銅板であったこと。

*銅は鉄に比べて融点が低いため、爆風到達前の熱線により屋根が融解し、爆風が通過しやすくなった。

最後に、下の写真を見てください。この写真は今年5月19日の広島平和記念資料館内の「地球平和監視時計」です。下段の数字は「5」となっています。

3年生が広島を訪れた4月24日から20日後の5月14日、アメリカによる臨界前核実験が行われました。この前日5月13日の地球平和監視時計の「最後の核実験からの日数」を示す数字は「976」を示していました。これまでこの数字の最長記録は、2021年9月16日から2024年5月14日までの976日で、この日のアメリカの臨界前核実験でリセットされたのでした……。

来年の4月13日には2年生が広島を訪れることになっています。その日まで地球上で核実験が行われなければ地球平和監視時計の下段の数字は

「330」となるはずですが。

